

## 第50記念号発刊にあたって

2004年12月

学 長 山 田 修 平

大学の使命は教育、研究、そして社会・地域貢献であり、研究が教育や社会・地域に還元されることが大学の大学たる所以といわれる。特に短期大学は地域社会との関わりが4年制大学以上に強いことが一つの特徴であろう。

本学は1971年に地域の強い要望で設立された。当初、英語科、家政科、幼児教育科、1学年定員計200名の女子短期大学であったが、その後幾多の変遷を経、2001年には男女共学に移行した。現在、国際文化交流学科、生活学科（生活経済専攻、住居・デザイン専攻、食物栄養専攻）、幼児教育学科1学年定員計300名、また各学科、専攻に専攻科を有する。この34年間に卒業生約9,000名。学科や専攻、定員の変更を時代の変化に対応して行ってきたが、コミュニティ・カレッジとしてのスタンスは変わらない。

教育、社会貢献の核となる研究の発表の場・研究紀要は大学創立の翌年の10月、第1号を発刊した。その後毎年1号ずつ刊行したが、教員の要望に応え第17号（1988年5月）より年2回発行することとなり、今回第50号を刊行する運びとなった。

第1号では5編の論文が掲載され、その後も掲載論文数は各号5—8篇前後であったが、8号から毎号コンスタントに10篇以上の論文が発表されている。また発表者もベテラン教授が中心であったのが徐々に若手、中堅教員の報告が多くを占めるようになってきた。研究分野はベテラン教授の人生哲学や歴史観に関するものから、若手教員の意欲的な実験、調査に基づく報告まで多岐にわたる。最近では概して、上記の学科、専攻の分野に関する研究が多く、しかも各分野と地域を関連させたものがみられる。また、紀要発表と関連させ学会誌への投稿、共同研究の発表も年々多くなってきている。

研究紀要の位置づけについては数度となく議論されてきた。投稿原稿はレフリーによって掲載の是非を決め、より質の高い研究紀要とする、他方若手の自由な研究発表の場として、研究活動を推進する。大きくいえばこの2つの意見に分かれる。本学の紀要は双方の要素を取り入れてきた。投稿原稿はレフリーではないが学術委員がチェックし必要なものは訂正を求める、他方若手、中堅教員の発表を推進する。今後もこのスタンスは変わらない。

50号の記念すべき本紀要には19編の論文等が掲載されている。教員の研究に対する前向きな姿勢の表れだと思う。50号を機に、さらに多くの充実した研究発表がなされ、それら研究が教育や社会・地域にさまざまな面で役立つことを希望したい。

50号発行まで、多くの方々に支えられてきた。各大学、関係研究機関、地域の方々にお礼を申し上げますと共に、今後も変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げます。